

(公社)国土緑化推進機構

第2回 君たちに伝えておきたい日本の原風景「一枚の手紙」(平成25年)

●最優秀賞

「シャイシャイの夏」

河嶋 五郎さん(埼玉県)

「シャイ シャイ シャイ シャイ シャイ・・・」。

森の近くを通った時、急にその鳴き声をした。胸がドキドキする。「今だ」今行かなくてはいけない。足がどんどんはやくなる。「どこだ、どの木だ」。上の方をさがす。「えーっ、これは何だ」。真っ黒のかたまりが木の上から下までびっしりだ。「すごい。シャイシャイだー」。だが、アミがない、カゴがない。家にとりに帰ろか。いやいや、こんなチャンスは今しかないんだ。息をとめ、その黒いかたまりの真上から、そーと、手をかぶせるようにして、ぱっと指でおさえた。「やったー、とれたぞー」。真っ黒の体が光り、すきとおった羽に黄緑色の線がある。お腹はきれいなオレンジ色だ。左手の親指と人さし指で持つ。まわりのシャイシャイがにげないぞ。2匹目もとれるぞ。おちつけ、おちつけ。息をとめてぱっとおさえる。「とれたー」。どこに入れるか。人さし指と中指の間にはさむんだ。三匹目は中指と薬指の間だ。四匹目は薬指と小指の間だ。はさんだ手の指がすごく痛い。これだけのものをとったんだ。がまん、がまんしろ。いつもはとれないシャイシャイなんだぞ。残りはまだにげない。五匹目をとる。もうはさむところがない。そうだ、ズボンの右のポケットがある。そこだ。六匹目は左のポケットだ。

「シャイ シャイ シャイ シャイ シャイ・・・」。指にはさんだシャイシャイ、ポケットに入れたシャイシャイがいつせいに鳴きだした。ものすごい音だ。ぼくの体じゅうをふるわせる。

シャイシャイはクマゼミといって、ぼくらの中では、なんていったって王様なんだ。大きくてカッコいいんだ。

あれから五十年以上たつが、いまでもドキドキする。あの森のシャイシャイに、もう一度会いたいな。